

協 同

[特集] 効果的な広報活動に向けた態勢の強化について

2023
February
KYODO

2

兵庫の農業人
Hyogo-nougyoujin



タッグ!兵庫の農業人

営農指導や食農教育等を行い、
岩津ねぎブランドを守り続ける

Farmer × JA staff
福本 学さん
長島 剣太さん
詳細は
裏表紙へ

兵庫の農業人

Hyogo-nougyoujin

生産者の皆さんとタッグを組んだ
多様な営農活動をご紹介します。

タッグの様子は動画でも配信中!

YouTubeで 兵庫の農業・農協発信ch 検索



今月は JAたじま

営農指導や食農教育等を行い、 岩津ねぎブランドを守り続ける

岩津ねぎの生育状況について話す福本さん(左)と長島さん



生産者

岩津ねぎ生産者
エフ・スマイル

福本 学さん

移住先を検討していた時に、たまたま出会った岩津ねぎの美味しさが忘れられず、朝来市に移住し栽培を始めました。今後は、より甘くておいしいネギが栽培できるよう、有機栽培やスマート農業等、新しいことにも積極的に挑戦していきます!



JA職員

JAたじま
和田山総合営農生活センター
たじまま和田山担当

長島 剣太さん

近年、岩津ねぎ部会の高齢化が進んでいます。今後、若い生産者の増加や栽培面積の拡大に尽力し、より多くの生産者にJAやたじままに出荷していただき、伝統ある岩津ねぎを守り続けます!



朝来市内のみで栽培される岩津ねぎは、甘みが強くて柔らかく、青葉から白根まで余すことなく食べることができる高品質な地域ブランドとして阪神間を中心に販売されている。現在は、18haの面積で、JAたじま岩津ねぎ部会(以下、「同部会」という)の部会員139人によって栽培されている。

同部会に所属する福本学さんは、4年前に大阪府から朝来市に移住し、90aのほ場で約18万本の岩津ねぎを栽培している。定期的に土壌分析を行い、不足している成分を調べることで、施肥量の効率化や品質の向上に励んでいる。福本さんが管理するほ場や、出荷された生産物が評価され、令和3年度岩津ねぎ部会の品評会で最優秀賞である兵庫県知事賞を受賞した。

福本さんは高い品質を目指した丁寧な栽培管理を基本とし、ドローンを活用した施肥や防除を行い、また、農薬・化学肥料を低減した栽培に挑戦するなど、おいしいネギ作りに意欲的に取り組んでいる。

JAたじま和田山総合営農生活センターの長島剣太さんは、同部会員に対し日々の営農指導や生育調査のほか、年4回の講習会を開催している。また、部会員のほ場を訪れて生育調査を行うことで病害虫の発生の有無や管理状況を確認

し、同センターの掲示板や同部会員向けのLINEアカウントで情報発信をしている。

長島さんは、同JAの直売所「たじまま和田山」も担当している。岩津ねぎが出荷される11月末から3月21日までの間、多くのお客様に手に取ってもらうため、POPの作成や入口近くに特別コーナーを設置し買いやすい売り場作りにも力を入れている。福本さんは長島さんに対し「多い時には1日2、3回ほ場を訪れてくれて、肥料や農薬の相談や情報提供をしてくれる頼もしい相棒です」と話す。また、同JA地区の小学生を対象にあぐりキッズスクールを開催し、岩津ねぎの収穫から調理までを楽しむ機会を提供するなど、食農教育も行う。

今後も、JAたじまは岩津ねぎの生育調査や講習会等の営農指導、あぐりキッズスクール等の食農教育に取り組む。

JAたじまの岩津ねぎに関する取組み

JAたじまは、139人の岩津ねぎ部会に対し、**播種・定植に関する講習会や生育調査等の営農指導や食農教育**に取り組み、**岩津ねぎブランド**をこれからも守り続ける。